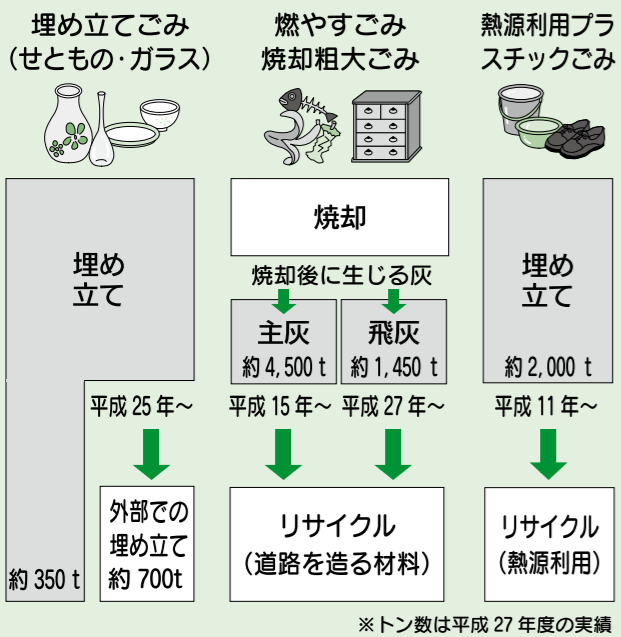


最終処分場の延命化対策

埋立量をできるだけ少なく抑え、施設を長く利用するための「延命化対策」に取り組んでいます。



安全で安心な新たな処分場整備に向けて

先進事例：クローズド型方式を導入した処分場(広島県呉市) 呉市一般廃棄物最終処分場『エコ・グローブくれ』



周辺の自然環境や生活環境に配慮すると共に地域住民の意見を取り入れた地域融和型の最終処分場として整備されました。

《クローズド型処分場の特徴》

- ①屋根で覆い、景観に配慮した構造
- ②ごみの飛散がなく、埋め立て作業の音を遮断
- ③自然降雨による浸出水の発生がない

私たちが住みやすい環境をつくるためには、ごみを処理する施設は欠かせません。今ここに、最終処分場の「いま」をお伝えして、皆さんにお願いしたいことは、「ごみを減らし、埋立量を減らすこと」です。

ものを大切にせず、壊れたら直す必要のない人に譲る、無駄遣いを無くす、食材を使い切る、食べ残しをしない、ごみの分別排出を徹底するなど、この機会に意識してみませんか。

あなたが今、捨てようと思ってるもの、それは本当にごみですか？

私たちがすべきこと
それは一人ひとりのごみ減量

近年では、屋根を設置し、外気や雨水などの周辺環境から分離するクローズド型方式や、廃棄物を処理した水を河川に放流しない無放流型方式を導入した施設など、環境にやさしい施設の整備が進められており、市では、こうした先進事例の研究を進めていきます。

るらヘクタール以上の敷地面積や効率的なごみ運搬ルート確保が困難なことなどにより候補地選定には至っていません。そのため、現在の処分場を少しでも長く利用するという観点から、市では、それまで埋立処分してきた主灰(燃えがら)や飛灰(フィルターで取れたほこり状の灰)を建設資材としてリサイクル処理することにも取り組んでいます。

市では、今後も継続的・安定的な埋め立てごみの処分を行っていくために、新たな処分場の整備が必要であると考えています。

先進事例を研究
新たな整備に向けて

す。現処分場が満杯になるまでの間にこの課題に対処するためにも早期に候補地選定をしていかなければなりません。このことから市では、今年度も継続して候補地選定のための調査を行っていく予定です。

特集 共に考えよう ごみの問題
— 埋立処分されるごみの終着地 —
最終処分場の「いま」と「これから」

私たちの生活に欠かせないごみの処理。焼却やリサイクルができないごみを埋め立てて最終的な処分をする植田最終処分場の容量が今、限界になりつつあり、新たな処分場の整備が課題となっています。

今回の特集では限りある最終処分場の現状と、今後取り組まなければならない課題をお知らせします。

◎ごみ対策推進課 ☎055-934-4889

排出され続ける埋め立てごみを処理するため、昭和52年の供用開始以後も拡張整備を行い対処してきたほか、平成11年には、「沼津方式」によって確立された燃やすごみ、埋め立てごみ、資源の3種類の分別収集に加え、ペットボトルの資源回収やプラスチックごみの分別収集を導入し、埋め立てごみの扱いを変更してきました。このように分別や市民の皆さんの意識の高まりと共にごみの減量化・資源化が図られ、近年、埋立量も減少傾向にあります。

しかしながら、埋め立てごみは、家庭や事業所で日々発生するため、平成15年から埋め立て続けている現処分場の容量も限界に近づいています。市では、長年処分をお願いしてきた植田地区への依存状態解消を図るべく、他の地区での候補地検討を重ねるなど新たな処分場確保に奔走してきましたが、候補地の条件であ

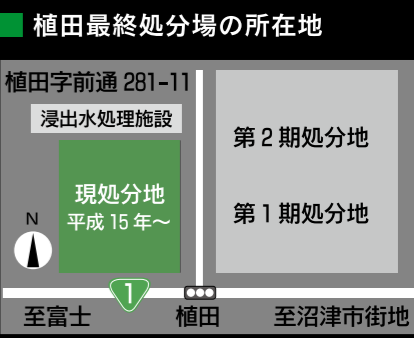
差し迫る
埋め立てごみ処理の限界



全国に先駆けて行われたごみの分別収集「沼津方式」は、市民が選んだぬまづの宝100選になっています。

ご存知ですか？
植田最終処分場の現状

本市西部の植田地区に位置する最終処分場。埋め立てごみの最終処分先として昭和52年から今日まで、39年間にわたり地元の理解と協力のもと、ごみの最終処分が行われています。



植田最終処分場の埋立容量の状況 (平成28年4月時点)

全埋立容量約40,000㎡のうち、残りの埋立容量は約10,000㎡と満杯に近づいており、市では外部でのリサイクル処理などにより埋立量をできるだけ抑えるための対策を行っている状況です。

外部に処理を委託する費用 (平成28年度予算)

処分場に埋め立てず、リサイクルや外部の埋立場へ処理(※)をお願いしている費用。

焼却により発生する灰のリサイクル	約2億5,000万円
熱源利用プラスチックのリサイクル	約9,800万円
埋め立てごみ	約2,400万円
その他の費用	約800万円
合計	約3億8,000万円

※自分たちのごみは自分たちの区域内で処理するという考えに基づいていますが、現在、外部への埋立処理を暫定的措置として行っています。